

チェック項目	はい ○	わからない (無回答)	いいえ ×	工夫点	職員間の改善目標他
環境・体制整備					
利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	30%		70%	体動のある子どもの配置	5名定員に沿った広さではありますが、バギーの乗り入れや、医療機器などが多い場合には不要な物の整理をする等にて改善を行います。
職員の配置数は適切であるか	40%	20%	40%	声のかけあい、職員同士の配慮	現在、療法士(OT・PT・ST)1名募集中です。他の専門職員の人数は要件に沿っていますが、緊急時の医療行為の対応を考慮すると十分な人員とはいえないので、今後も人員増について要望をだしていきます。
設備等について、バリアフリー化の配慮等が適切になされているか	100%			特性にあった場所配置	バギーで室内に入っていけるようリフォーム済みです。
業務改善					
Plan (計画) → Do (実行) → Check (評価) → Action (改善) サイクルに則り、職員が計画や相談に加わっているか	70%	15%	15%		
保護者の意向等を把握し、評価表による評価を実施し、業務改善につなげているか	60%	25%	15%		
事業所としての自己評価を行い、支援の質の評価及び改善内容を公開しているか	30%	70%			会報にて一部お伝えして参りましたが完全ではありませんでした。今後ホームページで全項目につき公表していきます。
第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		85%	15%	医師・担任等による見学とアドバイス	第三者評価の指定事業所は北海道では3か所となっており、外部評価は難しいのですが、関係機関等に状況の客観的な意見や指導を頂いていきます。
職員の資質の向上にむけた研修を行っているか	100%				療育、医療処置等について、今後も研修を重ねていきます。
適切な支援の提供					
アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析したうえで、個別支援計画（放課後等デイサービス計画）を作成しているか	85%	15%		研修を重ねていきます。	より良い個別支援計画作成にむけ、アセスメントを充実し、またアセスメントのための研修を受け努力していきます。
個別支援計画に沿った支援が行われているか	70%	15%	15%		職員間の支援会議等を十分に行っていく必要があり、会議内容の充実を心がけます。
活動プログラムの立案をチームで行っているか	85%	15%			
活動プログラムが固定化しないように工夫をしているか	70%	15%	15%	季節や行事にあわせた活動	五感をとおり、体調に配慮しながら好きなこと、嫌いなことを見つけながら、生活に結びつく快刺激を伝えていきます。
平日・休日・長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	40%	20%	40%		短時間(授業終了後)と、1日を通した支援内容はそれぞれ設定しておりますが、平日・休日・長期休暇に応じた設定につきましては、今後検討していきます。
子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ個別支援計画を作成しているか	45%	25%	30%		
支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	70%		30%		
支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点を共有しているか	70%	30%			
日々の支援に関して正しく支援記録をとり、支援	100%				療育内容、体調状況他を記録しています。

の検証や改善につなげているか					
定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断しているか	55%	30%	15%		体調の大きな波や長期入院等により、定期的なモニタリングは難しい状況でしたが今後、状況の推測をし、行っていく努力をしています。
放課後等デイサービスガイドラインの基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	30%	70%			体調変化や状態をみながら、可能な限りの支援を行っておりますが、今後はガイドラインに沿った支援かどうか振り返りたいと思います。
保護者や関係機関との連携					
障害児相談支援事業所サービス担当者会議に、その子どもの状況に精通した最もふさわしい職員が参画しているか	70%	30%		児発管・看護師・作業療法士による参画	医療会議には看護師が加わります。
学校との情報共有（年間計画・行事予定等の情報交換・下校時間の確認・送迎対応等）を行い、連絡調整をしているか	85%	15%			授業終了後のお迎え時に先生からの連絡調整を今後も行っていきます。
医療的ケアの部分において。子どもの主治医（かかりつけ医）や協力医療機関等と連携体制を整えているか	100%				注意点は、直接かかりつけ医より指示をいただき、各関係機関とも相談をしております。
就学前に利用していた保育所、児童発達支援事業所等との情報共有や相互理解を図っているか	70%	30%			
学校を卒業し（18歳）、障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供等しているか		100%			今現在は、まだ卒業の方がおりませんが、今後は必要に応じ、情報提供をしていきます。
他の専門機関（児童発達支援センター、子育て会議、旭児連等）と連携し、助言や研修を積極的に受けているか	60%	25%	15%	旭児連・児相他研修参加	
障がいのない子どもたちと交流や活動する機会があるか		30%	70%		どのように交流をしていくか、感染予防を十分考慮し、計画をたてていきます。
日頃から子どもの状況を保護者と伝えあい、子どもの発達の状況や課題について共通理解をもっているか	70%	15%	15%		
保護者の対応力の向上を図る観点から、家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング）の支援を行っているか	15%	40%	45%		医療面を含め、サポートを行う努力をいたします。
保護者への説明責任等					
運営規定、利用者負担等について丁寧な説明をしているか	70%	30%			
保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	60%	25%	15%		悩みや不安を気軽に話すことができる機会を今後も設け、それに対し迅速に対応していきます。
父母会の活動の支援をしたり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	50%		50%	カルチャー教室・参観日・親子レク開催	事業所としての父母会はありませんが、事業所として保護者が集まり交流できる機会を今後も行っていきます。
子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備すると共に、相談や申し入れに対して迅速に対応しているか	60%	15%	25%		相談や申し入れに対し、事業所内もしくは家庭訪問を行い、地域や医療機関とも情報を共有し即対応しています。
定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を発信しているか	85%	15%			利用児様にむけた活動状況報告（通信）と、行事案内や報告をこれからも行っていきます。
個人情報の取り扱いに十分注意しているか	100%				
子どもの意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	100%				
事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を行っているか	45%	15%	60%		内覧会、スヌーズレン発表会などを開催。

非常時の対応					
緊急時マニュアル、感染症マニュアル等を策定し、発生を想定した訓練を実施しているか	85%	15%			マニュアルの定期的な確認と見直しを行っています。
定期的に避難訓練や救出訓練を行っているか	85%	15%			年に春と秋の2回避難訓練を開催しています。
食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	85%	15%			食物アレルギーへの医師の指示は今のところありませんが、他の点ではアレルギー対応住宅にリフォームし、支援しています。
ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	85%	15%			
虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等適切な対応をしているか	50%		50%		虐待についての学習の機会を今後つくっていきます。
どのような場合に身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、十分な研修と説明を行った上で、個別支援計画に記載しているか	45%	40%	15%		現在、身体拘束を必要とするお子さまは当施設にはおりませんが、強度行動障害基礎研修を修了した者を配置しています。 改めて検討し、適切に対応してまいります。

この自己評価結果（公表）は、事業所全体で行った自己評価です。